

会 議 録

会 議 名	令和3年度第1回3市ごみ減量推進市民会議		
事 務 局 (担 当 課)	国分寺市ごみ減量推進課、日野市ごみゼロ推進課、 小金井市ごみ対策課		
開 催 日 時	令和3年11月22日(月) 午前10時00分～11時40分		
開 催 場 所	日野市クリーンセンター プラスチック類資源化施設 2階 多目的室		
出 席 者	委 員	<出席者：14名> (学識) 宮脇委員長 (日 野 市委員) 伊藤委員・大木委員・小野寺委員・比留間委員 (国分寺市委員) 佐藤委員・八ツ藤委員・石垣委員 (小金井市委員) 石田委員・斎藤委員・林委員 (行政) 高尾委員(日)・小坂委員(国)・西村委員(浅)	
	事 務 局	日 野 市：高橋課長補佐、山口主任 国分寺市：永沢係長 小金井市：府川係長	
欠席者	(国分寺市委員) 小泉委員・(小金井市委員) 山田委員 (行政) 深澤委員(小)		
傍聴者の可否	可	傍 聴 者 数	2人
会 議 次 第	1. 委員長挨拶 2. 小委員会からの中間報告 (1) 情報発信・環境学習グループ (2) 減量グループ 3. その他 4. 閉会		
会 議 結 果	別紙審議経過のとおり		
提 出 資 料	別添のとおり		
そ の 他			

宮脇委員長	<p>今回、中間報告ということで、最終的にそれぞれの市に対して皆様が議論していただいた内容を報告していくという形に進んでいく。今の活動を継続していただいて、この多摩地区全域もそうですけれども、特に3市のごみの状況を更に改善していくような取組になればと考えている。</p> <p>それでは、会議を始める前に傍聴の有無について、事務局よりお願いいたします。</p>
事務局	<p>本日は傍聴者がお越しになっております。</p>
宮脇委員長	<p>それでは、この会議は原則公開となっておりますので、傍聴者の方にお入りいただきたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">【「異議なし」の声あり】</p>

宮脇委員長	それでは、議事に沿って会議を進めてまいります。
宮脇委員長 石田委員（小）	<p>次第の2から参ります。「小委員会からの中間報告」とあります。初めに情報発信・環境学習グループから現在の検討内容についてご報告を頂きます。その後、次のグループということにしたいと思います。</p> <p>それでは、情報グループの方、どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>情報発信・環境教育グループの中間発表です。前回発表した後に何をやったのかということを中心に報告いたします。資料の1番ですが、3市市民会議の基本方針、協定書から抜粋した「目的」と「所掌事項」を記載しています。</p> <p>2番目として、前回報告以前からの報告事項ですが、2回しか会議が開けなかったもので、それをまとめたものです。</p> <p>①では、各委員にアイデアを、3件以上を目標に提案していただいて、それを情報グループの次の会議で検討するというにしました。</p> <p>②では、提案者の意見が重複していても、まとめてしまうということはありません。あくまでも概要を説明します。</p> <p>また、会議の回数に制限があるので、この時点でもちかく各委員の支持の多かったものを選び出しまして、これは2件です。これは次の説明、項番の1-1と4-1です。これについて、次回の情報グループの会議で事務局から各種の見解や対応に関して明確にさせていただくということをお願いしました。付け加えて、そのときをお願いしたのは、コロナ禍で3市それぞれの廃棄物の減量というのは、長期計画とは恐らくずれているだろうと。それを前提に今後、特にごみの減量をどう考えているのか。この増えた分は一過性のものだから、ないと考えて計画を進めるのか、状況が変わったという前提で考えるのかということ。そして、当然次にお話しいただく減量グループからの提案もあると。それを踏まえた上で、次回の情報グループの会議では、現時点で明言可能な範囲でいいですから、事務局には3市それぞれの考え方を具体的に示していただくという具合にお願いしたい。議事録には、見たら残っていなかったのですが、これは非常に重要です。</p> <p>次に、各委員から提案されたアイデアに関して概要を説明させていただきます。（配布資料により概要説明あり）</p>
宮脇委員長	ありがとうございます。まず、補足というか、説明を追加されたいというグループの方がいらっしゃれば、お願いしたいと思います。
比留間委員 （日）	ただ今、説明いただいたところの5-4の1行目から2行目にかけてのところの「すいもんがく」と読みます。文にいとへんがつくときもあるのですが、要は地下の構造ですね。地面の構造なんかを調べるものです。
宮脇委員長	それでは、ただいまご報告いただきました内容について、ご質問、ご意見があればお受けしたいと思います。それから今、ご質問、ご意見と言ったのですが、さらに何かこんなことを検討したほうが

<p>林委員（小）</p>	<p>いいのではないかというのを、また別のグループからのご発言でも結構かと思しますので、よろしくお願いします。</p> <p>今ご報告いただいた、提案されたアイデア全体をずっと眺めていくと、これは可燃ごみを念頭に置いているのか、可燃ごみの削減というか、可燃ごみを念頭に置いているのかなという気もするし、いやもう少し広い、いわゆるごみ減量全体を触れている話なのか、ちょっと分からないところがありまして。プラの対応だとか、そういうアイデアも本当はあったほうがいいのかなと実は思ったのです。そういうものが出てこなかったのも、ここの内容は、皆さんが念頭に置いているのは、いわゆる可燃ごみに当たるものをどれだけ減らすか。プラを減らすということも可燃ごみを減らすことに多分つながると思うのですが、ということをちょっと感じました。</p>
<p>石田委員（小）</p>	<p>このときはやはり可燃ごみというのが、全体としては、アイデア募集のときに明言はしなかったのですけれども、やはりこの場所に負担をかけないということなので、ほとんどの方は可燃ごみを意識されて作られたと思います。ただ、そこに絞り込んでしまうというアイデアは出てこないし、非常に狭い範囲で、水銀の調査とか、河川のことまでもご提案いただいて、その分、意見としては広い意見になっているかなと思います。おっしゃるように、プラスチックを混ぜ込まないということは、可燃ごみを考えるときには非常に重要な要素になりますので、それも含めて次回ちょっと審議はさせていただきたいと思います。</p>
<p>宮脇委員長</p>	<p>範囲を少し広げられたら、ごみ減量全般にというご意見かと思しますので、ぜひまた検討を進めていただければと思います。こちらのグループは情報発信とかが主ですので、逆に発信、今回書いていただいたようなアンケートをするのだとか、どうやって広報するのかという手法のほうが議論のメインとなるので、逆に減量グループのほうからこんなのもあんなのも広報したほうがいいという個別のテーマについて、今、委員からおっしゃっていただいたような形でご提案いただくと、よりよい方向になるのではないかと思います。そのほか、いかがでしょうか。</p>
<p>石田委員（小）</p>	<p>付け加えて補足の説明をしたいと思うのは、2節の最後のほうです。ページは2ページ目なのかな。「更に、コロナ禍で」云々とありますが、このときに知りたいのは2つあります。1つは、現状は突発的なものだから、実際は皆さんの生活はコロナ禍でなくなったらゼロに戻って、本来の削減予定はそのまま行くだらうという具合に、市として考えているかどうか。あるいは、やはり生活形態が変わっているから増えた。現状が現実の実力だとして、ここから改めて減量を考え直さなければいけないと市が捉えているか。どちらかというのは、まず聞きたいことです。</p> <p>2番目のことは、減量グループのお話を全部伺った後で、改めてしたいと思います。</p> <p>この回答は今日でなくてももちろん結構です。次回の会議で議論してくださいとお願いしていますので、時間的余裕はあると思いますの</p>

<p>宮脇委員長</p>	<p>で、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それでは、3市それぞれということですので、整理してということであれば、後日ということにしたいと思ひます。</p> <p>それでは、そのほか委員の皆様からのご意見はいかがでしょうか。結構幅広く取り上げていただけていますし、大変よろしいのではないかなと思ひます。</p>
<p>八ツ藤委員 (国)</p>	<p>1-1の見学用副読本の編纂と書いてあります。これは私も大賛成で、今見学は小学校4年生が随時やっていると思うのですけれども、そこではどういう資料を子どもに与えているのかちょっと分からないのですが、前の情報グループで、本格稼働前だったのですけれども、小学生団体の見学者対応ということで提案をしております。分かりやすい子ども向けの小冊子、リーフレットを作成すると。小冊子には家庭から出たごみが最終処分、エコセメントまでの流れを分かりやすく書いてもらいたいということと、それから3市によって微妙に可燃ごみ以外のところは違うと思ひますので、場合によっては3市がそれぞれ、共通部分と独自のものとミックスして、4年生向けのリーフレットを作っていたいただければ、子どもが見学したときの貴重な資料になりますし。それから4年生は十数時間ごみについて勉強するのですね。それ以降の勉強にも役立つということで、ぜひ提案をしていただきたいし、3市もぜひ前向きに受け止めていただければと思ひます。</p>
<p>石田委員(小)</p>	<p>ありがとうございます。おっしゃるとおり所掌事項でやっていますので、今回も積極的に取り上げていただくことにします。会議のときには一応、日野市は資料を作っておられるという話をされてきました。ほかの2つはまだのようなので、これはぜひ前向きに。今、委員からもありましたように、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
<p>宮脇委員長</p>	<p>小学校とか非常に大事な環境教育についての話かと思ひます。</p> <p>そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。最後のほうに、もしよろしければ、先ほど言いましたように次のグループにもご発表いただいて、その後、次の減量グループの質疑応答が終わって、かつ時間が少し、このペースだと少し時間が取れると思ひます。全体的な、両方のグループの発表を聞いた後でご意見を伺うという方向で進んだほうが効率的かと思ひますので、もしこの場で、どうしても今言っておかなければというのがなければ、1個先に進みたいと思ひます。よろしいでしょうか。</p>
<p>宮脇委員長</p>	<p>それでは、続きまして、減量グループのご発表に行っていたきたいと思います。よろしくお願ひいたします。</p>
<p>小野寺委員 (日)</p>	<p>この市民会議がスタートした初年度、これは平成30年度から令和元年度までの期間について振り返ってみますと、まず、最初は3市の長期的なごみ減量・資源化の取組を検討しました。それで、大胆に長期目標としまして、これは地球温暖化の原因となるごみの焼却ですね。これを減らすことが取組の最大の目的なわけですがけれども、それと同時に現在の新可燃ごみ処理施設ですね。この寿命が来る30年後の</p>

2050 年になりますけど、これに向けて焼却ごみをゼロに近づけると、こういう目標を設定しました。

第1期の目標としては、10年後の2030年度までに焼却ごみを半減させるという目標を立てまして、取組としては、それに向けて今まで3市ともやっていなかった、全市を対象とした生ごみの分別収集、資源化と、それから、もう1つは紙おむつの資源化ですね。これが高齢化とともに焼却ごみの中で比率が増えていて、現在は4～5%なのですけれども、10年後にはその倍ぐらいになるという予測もあり、この資源化に挑戦するといった課題を提起しました。

それで、今回の令和2年度から3年度にかけての我々の作業としましては、今度は中期のタームでの、大体3年から5年ぐらいを想定して、ごみ減量・資源化の取組をより詳細に検討した。そのために3段階の作業を行いました。第1段階としては、3市のごみの排出状況や、その処理状況の現状を把握するとともに、3市が実際にごみ減量や資源化の取組の現状を把握しようということで、それを整理した資料が、お配り資料です。

それから第2段階としては、この資料を基に取組課題を抽出して、それを集約しました。最終段階、第3段階としては、集約した取組課題の中から重点施策をまとめました。今日はこの現状把握と、それから取組課題の抽出につきまして重点施策の方に盛り込みました。

【重点施策について資料により概要説明あり】

宮脇委員長

減量グループの方で補足とか追加の説明、ご意見とかあればお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、ただいまの報告について全体的にご意見、ご質問をお受けしたいと思いますので、よろしく願いいたします。また、先ほどと繰り返しですけれども、この内容だけでなく、ごみ減量につながる取組、検討してほしいと思うような事項など、こんなのも検討していただいたほうが良いということがあれば、ぜひご意見としてお出しただければと思います。

石田委員（小）

非常によくまとまった資料でページ数があり、重要なことがみんな書いてあるので、困ったことがあるのですね。

情報グループとして情報発信するポイントを絞り込めなくなっている。それで、今この場でというのは無理かと思うのですが、絶対大事なものを1つぐらいと、それから次に大事なものを2つか3つぐらいに、そこを踏まえて次回の我々の会議の中でも、これに関する情報発信の仕方の在り方を検討してくださいという提案をすることができるので、それをお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

小野寺委員
（日）

グループ内でも、もう少し絞り込むべきとのご意見もある。やはりこれは優先順位とかなかなかつけがたいところがあるのですよね。極端に言えば全部重要で、これを1つか2つに絞るとするのは難しい。

石田委員（小）

絞っていただければ議論に乗せられるが、このままだと多分我々のところで議論しようとする、もっと発散してしまうと思う。

小野寺委員 (日)	<p>強いて言えば、やはりこれは焼却ごみを減らすというのが大きな目標なので、焼却ごみの中でウェートの高いものですね。やっぱり生ごみになりますかね。これをいかにして減らすか。食品ロスを減らすということと、それから出てしまった生ごみは自家処理するということですね。さらに言えば、今後の課題ですけれども、施設での資源化ですね。施設、堆肥化施設とか。メタン化の施設がありますね。そういう施設に委託して資源化するとか、この3つの方法があるわけですよ。その辺ですかね、やはり重要なものは。</p>
八ツ藤委員 (国)	<p>情報発信というのは、誰がどこに対して情報発信、今の内容というのはどういう意味ですか。</p>
石田委員(小)	<p>情報グループの権限は、特別に権限あるいは市民に対する浸透性ですね。特別に我々が何かで出したとしても、何の浸透もないのです。だから出すのは、最終的に具体的に出すのは各行政から市報であり、あるいは何らかの広報でもらうしかない。</p>
八ツ藤委員 (国)	<p>それで、例えば3市の市報に載せていただきたいと。その情報を入手しようという話ですか、今の話は。今の減量グループの説明の中で、それを咀嚼して、3市のほうにこういう情報を市民の皆さんに発信してくださいよと、そういう提案をするという意味ですよ。</p>
石田委員(小)	<p>ちょっと私が勘違いしているかもしれませんが、この減量グループの中で絞り切れないというのは結論だということもそこで話は終わるのですけれども、もしある程度、これとこれだけは情報発信が絶対必要だからやりましょうということであれば、我々としてもそれを市民に啓蒙するための課題として、市に対してこれとこれは市報で必ず出してくださいという具合に要求する形になると。それ以上の具体的な力はありません。権限もありません。</p>
八ツ藤委員 (国)	<p>ですから、去年の3月15日号に3市共同で本格稼働前に連携記事を書いたのですね。そこには我々市民会議のメッセージを載せて、3市のほうに、これから定期的にそういう3市の連携記事を書いていただくようお願いしますよと提案してあるのですね。例えば来年の3月に、ではまた市民会議でお願いすると、連携記事を。その内容の1つとして、今のごみ減量グループのことを載せるという感じですかね。</p>
石田委員(小)	<p>そこまで具体的に絞り込めていないです。ここにありますように、まずは皆さんの提案を整理したのが限界でありまして。そのときに、私の考えとしては、せつかくだから減量グループからのこういうものも、我々が今日出した資料以外にこういうことが抜けていると、こういう提案が必要だということを言っただけであれば、この十数ページの資料の中から、これとこれを踏まえたら、これとこれも考えなければ情報発信として不足しているよということがあれば、指摘してほしいというのが本心です。</p>
小野寺委員 (日)	<p>日野市の例なんか見ますと、やはり先ほど啓発ということを盛んに言いましたけど、やはり啓発ということがまだまだ足りないと感じ</p>

じているのですよね。ですから、情報グループからいろいろな、こういう手段を使ってやったらいいのではないのという提案、あるいは我々から、これは重要だからこれに力を入れてやってほしいと、そういった提案はいろいろな形で出たほうがいいと思っています。どこがやったらいいとか、そういうことはもう抜きで、とにかくいろいろなところから提案する、こういうことをやってほしいということを行政にぶつけると。そういうことがいいのではないかなと思っています。

林委員（小）

さっき議論がありましたけれども、やはり情報発信するポイントは、これからのポイントはやはり生ごみをどうやって減らすか、減らしてくださいと、それが一番ではないかと私は思っています。あと具体的には、実は私はこの会議で当初思っていたのは、各市共通の施策をバツと打ち出せたらいいなと実は思っていたのですが、減量グループでずっと議論をして、今回のこの資料をまとめていくに当たってやはり思ったのは、なかなか難しいのですね、1つに、要するに同レベルで同じように1つの文言で施策を書き出すというのは。というのは今までの歴史があって、それぞれの市がそれぞれのやり方でそれぞれのアプローチで今に至っているわけですね。そうすると、多少出っこみ引っ込みがあるのです。そうすると私が今、実は個人的に考えているのは、例えば3市の会議の今回のこういう議論を踏まえて、自分の市に戻って自分の市の中でもう一度、いや、よその市を見てきたよ。こういうことをやっているよということのを参考にして、うちの市ではどうしてこれをやらないのですか、やりましょうよということをどんどんやっていく必要があるかなと。そういうふうにつないでいきたいかなと思っています。だから、あまり共通的な同一の手法を強調するものではないのではないかなという気がしています。特に生ごみに関していうと、例えば今まで我々の中で議論になったのは、やはり生ごみをできるだけ自家処理を、ではもっと進めようよという話が出てきて、そうすると各市それぞれのやり方で今、補助金の出し方だとか、それからコンポストに重点を置いているところ、それから電動処理機に重点を置いているところ、バラバラですけれども、それぞれがやるのだったら、やはり共通の生ごみを減らしましょうというテーマにして、それぞれの市が持ち帰ってやるという動きが現実的ではないかなと、実は気がしています。

大木委員（日）

今の話の続きみたいな形になるのですけれども。ごみから資源にするか、リサイクルするか、という形なのですね。それで一番大事なのは各家庭がいろいろお話を聞いて、「なるほど、これは」というのでストーンと落ちるようなものを出すのが大事ではないかと思うのですよ、一番。食べ切りとかロスを少なくしようとかそんなのではなくて、それも大事です、もちろん。けども、ああ、なるほど、こうやれば減るなど、減らせるなどというものを、そういう提案をするのがここではないかなと思うのですよ。漠然と資料を出して、あれ啓蒙だと。啓蒙というのはそもそも変な話ですよ、啓蒙なんていうのではなくて。各家庭が「あっ、これなら」という。例えば今ちょっと出た、家庭でもって生ごみをいかに減らすかということのを、食べ切りとかではなくて、こんな機械があるからそれを使ってやればグッと減りますよと。では、それは妥当なのかどうかというのは、皆さんでまた

それはやれば良いと思います。それがいいのだったら、それを大いにアピールすることをやったらいいのではないかなと思うのですよね。そこが一番大事ではないかなと思うのですけれども、何か漠然としたことで啓蒙だとかどうのこうのではなくて、そういうところを目がけていけばいいのではないかなと思うのですけど、どうもそれが何かうまくいっていない感じがしますね。だからちょっと委員会の苦情みたいな形になるかもしれませんが。それを目がけて行くべきではないかなと思います。

宮脇委員長

いろいろなご意見があるかと思います。皆さんそれぞれどんな意見があるのかなというのを理解していただくのは大変重要だと思いますので、考えていらっしゃることはお一人ずつ発言していただければと思います。

石田委員（小）

今、大木さんのような話もあったのですが、私はさっきごみに関して各市の減量に関する考え方、コロナ禍で増えたことに対してどう分析するか、ということに対する意見を頂きたいと言ったのは1つで、もう1つ、本当に聞いたかったことは、ごみ減量ということはどう考えているのか。覚書だけ読むと、ごみ減量に対する提案をすることになっているわけです。極めて素朴に読めば、現在の計画よりも減らす施策を考えて何かやります。今は長期計画があります。だけど、減量グループの考え方は、恐らく私が推定するに、30年後にはゼロ、20年後には10%と段階的にしてゼロにするという要求をしているのかなと思うのです。何でそんなことを問題にしてここで言ったかということ、今新たな方向で、委員みたいな言い方、言葉は出てこないのだけれども、私は各市の出してきた長期計画は決して生ぬるいものではないと思います。みんなそれぞれの市で過去の経緯があって、まさに委員がおっしゃったように過去の経緯があって絞り込んできているはずで、絞れるものは絞っている。ただ、ほかの市から見たら、これも使えるというものがあれば、それを出すとか、それももちろんいいですけど。そうしたら市でまとめた長期計画よりももっと劇的に減らすような手段をこの市で出せるかといったら、私はとても難しいと思っている。それは各市がそれぞれやってきたことで、それを尊重すれば予定よりも10%ぐらい減らせるかもしれない、頑張ったら。だけど、半分とかゼロにはできないと思う。

そして、何でそこにこだわるか。長期計画は各市が市議会とかで予算、市長の承認も経て作ったものです。30年後に半分にする、10分の1にするという計画を立てるが、これはもう1回全部の削減する計画、費用も含めて計画を作り直すということです。それをやるのかと。そこで、私はどうもこの協定書を、ごみ減量を推進ということをもう1回考えました。そうすると、どこかの国の憲法の解釈ではないけど、あくまで減らすというのは現状から減らすのであって、減らす量としては長期計画どおりやりますという解釈は確かに減量になるのです。そう考えるならば、あまりここで何か劇的に減らすための施策は出てこない。そのために、この市民会議でやったのかというのは、そこは非常に疑問です。

だから、やはり劇的に減らすということを考えるのであれば、考え方は今申しましたように、各市がせっかく作ってきた長期計画よりも

もっと厳しい条件で再立案する、それは数値目標を出すというのは簡単です。でも内実が伴っていないと仕方ないです。だから、減量するという立場で考えるならば、この焼却場ではなくて、次がもう要らないぐらいですと考えるなら、物すごい減量をやらなければいけない。それは明らかに今の計画とは全く違うものになるはず。

そこまで考えるなら、そこなりの提案をしなければいけない。そこまで考えないで、とにかく計画は絶対に厳守するためにいろいろ3市市民会議として言いたいことを言う、提案するというのであれば、これはかなり量的な出し方とか議論の仕方とか、何を狙うかということは全く違ってくるのですね。これをここにいる委員の皆さんに問いかけても意味がないのです。これは担当者ではないので。担当者は市なのです。3つの市の聖域がある。では、その市がどう、もう計画よりももっと劇的に減らすことを考えてこの会を運用しているのか、そこまでは考えてはいないのか。それを聞いたかったのです。

これは最初にごみに関する考え方、2つ言った現状をどう見るかということと、将来どうするか、これは2本の柱なのです。それを今ここで聞いても多分答えられないと思うので、少なくとも次の情報グループの会議までにはどう考えているのか明確にしてほしいというのが私の願いであり、今日ここに集まっていた方にも、どう考えているのかというところをもう1回見直してほしい。劇的に減らすのだというのは多分減量グループの考えだと思うので、見直す必要はないかもしれないのですけれども、そういう具合に思います。

八 藤 委 員
(国)

国分寺の八ツ藤です。今のお話ですけれども、前の減量グループでは30年後に、ゼロに近づけます。これはあくまでも理想論ということで、ではどういう方法でやるかと、劇的に減らせるか、それはやってみなければ分からないと。ただ、そういう理想論を掲げて、あるいは15年後には半分に減らす。掲げないと何もそこのところは進まない、あとは、3年、5年の短期の数値目標なんかできるわけないわけだから、基本計画が3市にありますから。そこではなくて、理想論を掲げて、ただ我々は毎年毎年、知恵出しをしていくと。個別のテーマを絞って知恵出しをしていくと。それを市に提案していくということが多分限界だろうと思います。それを受け止めるかどうかは3市の問題ではあるのですけれども、この覚書によると、一応重く受け止めるということを書いてありますので。だから、あくまでも我々は知恵出し。数字の裏づけはなくてもいいと個人的には思っているのですね。

ですから、せっかく関心のある市民の方が集まっていますから、いろいろな他市の情報をつかんできたり、みんなで知恵を出して行って、必ず3市に共通の問題もあるはずなのです。例えば食品ロス。これから法律も施行されるプラスチックの問題。これは各市とも、今のところ多少手探りの部分はあるかもしれないです。それを共通の課題として何かできませんかねということ、あまり各論でやっても今までの各市の歴史もありますし、予算もあるというところで、なかなかそこは3市共同というのはできないので、なるべく共通的なものを見いだして、それを深堀するというのではないかなと、個人的には思っているのです。我々は3市を拘束することができませんので、あくまでも提案して、これはいいと思ったら各市で予算をつけて実行するか。

もう1つ、情報発信のほうは、これは定期的に市民会議として3市の市報なんかを使って共通の連携記事みたいなものを作って、稼働状況はこうですよとか、今市民会議ではこんなことを議論していますよということを定期的に発信してくということではないかなと思うのです。

皆さんにお配りしたこれ、国分寺市の市報の折込みなのですけれども、一番最後に「ごみダイエットかわらばん」とあって、我々のグループはここを見学したのでレポートがここに書いてあるのです。組合のほうにQ&Aということで質問したことも書いてあります。我々がここを見学して考えたことも書いてある。市民には、分別をさらに徹底しましょうよということをお願いしたかったのですけれども水銀体温計などが入っていて一時規制値をオーバーしましたと、3回もオーバーしています。そういうことを市民に啓発するという意味でこれを作っているのです。恐らく市民会議として連携記事を載せるにしても、まず土台はこの稼働状況はどうですかと、何が課題ですかと。あるいは、住民の方の意見はどうですかという情報を入手して、発信していくと。もちろんごみの減量の啓発も大切だけれども、そこがまず出発点としてあるのではないかなと思っているのです。そこがちょっと皆さんと違うのかもしれないですけれども。

小野寺委員
(日)

今の問題ですね。焼却ごみをゼロに近づける必要があるかどうかと、これは確かに大胆な考え方ですけれども、我々減量グループとしましては、30年後にこの今の焼却施設の寿命が来ることは間違いないわけですよ。そのときにどうするのか。同じ場所では建て替えられないのですよ。これは地元と約束していますから。それでは、ほかの2市で建てられるのかと。そういうことを考えた場合、やはりかなり30年後というのは、これはもう本当に建てられない可能性のほうが高いのではないかなという危機感を持って、それで提案しているわけです。要するに、その危機感を持つか持たないかということで、考え方は分かれてくるのではないですか。何とかなるよと、30年後は。それだったら今の各市のごみ処理基本計画にのっとってやればいいのではないかと、そういう考え方になるのでしょうかけれども、我々はそう考えなかったですね。

これは前回一応提案がまとまったところで、これはトップに言っているのですよね。トップに我々はこういうことを提案しますということには言っているのですよ。やはり30年後は、焼却ごみはゼロに近づけましょうという提案は言っているのです。ただ、これはまだオーソライズはされていません、恐らく。各行政の中で。ただ、市民としてはこう考えているということには言っているわけなのです。やはりこういうことをぶつけていくことが大事なのではないですか。だから今の行政のごみ処理基本計画はこれで十分だということはないと思うのですよね。私が思うのはやはり不十分だということで、いろいろ強化していかなくてはならない、そういう前提でいろいろ提案しているわけです。

大木委員 (日)

30年後どうのこうのというのは当然ですよ。そんなのはもう誰も分かっていると思います。だけれども、そこに近づくにはどうしたらいいのか。例えば先ほどちょっと言った落ち葉とかを、どこかの堆肥

	<p>化するような形をやらなければいけない。では、それを市として何か取り組めないだろうか。そういうことをクエスチョンアンドアンサーというか、形でもってやり取り。そういうのをやっていくのが大事ではないかなと思うのですよ。そこまで行かないのですよね、ここにおいては。</p> <p>例えばの話、今の話、堆肥工場を作れるか作れないかという話。そうすると一歩近づいているわけですね。30年後という、そういうあれではなくて、そういう一歩近づくにはどうしたらいいかと、そういうことを議論したらいいのではないかなと思うのです。</p>
宮脇委員長	<p>個別のテーマを絞ったほうがよいと。</p>
大木委員（日）	<p>テーマを絞ってね。本当にテーマを絞って、1つでも2つでもできればいい。ただ、漫然とやっても進まないのではないかなと思うのですよね。ごみ減量ということに我々は活動しているのではないかなと思うのです。ごみ減量をどうしようかと。それを一歩でも二歩でもそこに何か結びつくような議論をしていったほうがいい。いっぱいいっぱいダーッと出すのではなくて、みんなでそれこそやって、これは各家庭も協力できそうだなということを、それをつかまえて、それを幾つかこれが1番目だ、これが2番目だという形でやっていくのがいいのではないかなと思うのです。</p>
宮脇委員長	<p>この市民会議の趣旨と、どこまでが我々が達成しなければいけないのかという再度確認が必要だと思っている。</p>
小野寺委員（日）	<p>達成は難しいかもしれないです。</p>
宮脇委員長	<p>いや、違います。達成というのは、今委員が言われているようなゴールがすぐできるという意味ではなくて。もともとの私がお受けしたときの感覚では、先ほど委員がおっしゃっていたように、このメンバーは、要は市の職員の方はたくさん業務をされていると思います。その中で、情報収集がやはり100%できているわけではないので、我々はやはり多数の意見、いろいろな情報を収集してきて、こういう事例とか、地方で、あって、それがこの市でできるのではないですかということを情報提供していくというのが大きな目標ではないかと。ちょっと委員の場合は、本当に減らすところまで突っ込もうという話で言われているので、この辺りは市のほうでどこまで我々に市民の意見を求めたいのかということもあるかと思います。正直、私は技術屋なので、なかなかどれも、いろいろな技術がありますけれども、一長一短があって、これをやればもう完璧にできてしまうというのはないわけですね。</p>
石田委員（小）	<p>ないでしょうね。</p>
宮脇委員長	<p>なので、何となく感覚的には、それぞれの市で同じことを全部統一して、このごみについてはこれをやるのだというのは現実できないと思っているわけです。ですので、そういう意味で、多数の意見を出していただくということが一番メインではないかなと思うのですけれど</p>

も、確かにそれだと、大木委員がおっしゃるとおり、たくさんメニュー出しをしておいて、「はい、見てください」と言って終わってしまうところで、実際にさらに一步進んでいかないというのも現実ではあるので。それは意見を渡した後に、やはり市のほうから渡しっぱなしではなくて、それぞれの項目についてそれぞれの市がどう考えているかというのを戻してもらって、現実的にできそうなのかどうかと。今の段階では確かにメニューをお渡しするというので終わってしまったりとか、広報にこの程度のことを書いてくださいね、で終わっているのですけれども、委員がおっしゃったことは非常によく、メニューは出すのですけれども、やはり回答を各市から考えていただいて、共通で書けることは書いていただくとか。そういうことをやっていくというのがよろしい気がいたしました。おっしゃるとおりで、メニュー出しだなと思って、私も協力していたつもりです。

逆に石田委員が最初にご報告いただいたように、取りまとめがうまくと言われたのですけれども、私からすると、とにかくたくさん意見、いろいろな意見が、少しずつニュアンスが違うので、似ていますが、まとめないほうがいい場合もあると思うので、たくさん出していただいて、市のほうからそれぞれまた。特に市のほうで重要とか、やれる、やれないとか、今後検討したいというのをそれぞれの項目でやはり見ていただいて。これも全然 100%すぐこれができる、できないではないので、これについては興味持てたとか、そういうことでも結構ですので何か返していただくと、またそれについて、ではどこに絞り込みます、それぞれの市ではどれをやりたいのかとか、ご希望もあるし、というところはあるかと思えます。

正直、ごみ処理の場合は激しくお金をかけて、激しくエネルギーを注ぎ込めば処理できてしまうという段階ですが、しかし、今、脱炭素の話もありますので、エネルギーをそんなにかけれないという趣旨もあります。やはり再生可能エネルギーの電力の部分でいったら、2割しか持っていない日本ですから、その状態でできる範囲のことをまずはやらなければいけない。でも、もしかすると現実的にはあるかもしれません。

先ほど言われた、30年後もしかすると、本当に日本政府が言うような形で進めば、脱炭素が本当に進めば、エネルギーのもう9割は再生可能ですよとなれば、そのときはもしかすると、今エネルギーをかけて大変だ、こんなにごみ処理できないというものが、もしかするとすんなりできてしまうかもしれない。先ほど言った生ごみの話もちよっとチラッと委員から出ていたかと思うのですが、今、機械を使って、電気を使ってやるということは、そこでCO2を使って電気を使ってやるような機械、本当にそれで生ごみを処理していいのかというのは、多分に議論が分かれるところです。結果、答えはない。ただし、では電力がほとんど再生可能ですよという話になってくる時代になれば、またそれはそれで利便性が非常に高く、交通手段とか様々なことができるかなと考えております。

私の個人的な見解をいっぱいしゃべり過ぎてしまいました。ごめんなさい。あまり気にされないで、また議論を進めていきたいと思えます。やはり次回までにとということではないのですけれども、我々市民会議にどういうところまでを求めているのかという点と、先ほど委員に最初に言っていた2点なのですけれども。あと、そのやり取

りの方針などを少し整理していただくと、よりよい会議の進捗になるのではないかと。何となくワーツとみんなで違う意見を言って、書いて出すというだけでは、それでもかなり有用ではあると思うのです、それぞれの市にとっては有用なのですけれども、やはりそれより一歩進んで、現実化していくというところが少しでもあったほうがいいかなと思いますので、その辺、進め方をまた、ぜひ調整させていただいてということになるかと思います。

八 ツ 藤 委 員
(国)
西村委員 (行)

ちょっと1点だけ。今日、出席されておられますか、組合の方は。
はい。

八 ツ 藤 委 員
(国)

本格稼働して1年半以上たっていると思うのですがけれども、我々市民会議のほうに稼働状況とか、いわゆる前年度の処理状況の詳細について報告を受けていないと思うのですね。我々が知るのは9月に行された浅川環境清流環境組合ニュースで3市はこれだけ排出量がありましたよと、それだけなのです。ぜひ定期的をお願いしたいのは、搬入の実績と、これは当然のことなのですが、各設備の稼働状況とか、総発電量と売電量、それから公害防止の規制値の順守状況、可燃ごみへの異物の混入状況、それから周辺の地域の皆さんからの何か要望事項があったのかなかったのか、あるいはそれについてどう対応されたのかとか。見学もいよいよ始まっていると思いますので、見学者の状況、団体がどれぐらい、個人がどれぐらい、あるいは反応はどうだったとか。それから今施設のほうで考えている施設運営の課題とか、対応策みたいなところ。それから何よりも、その施設のほうで我々3市の市民に対する要望事項があれば、それをお聞かせいただきたい。そういうことをまとめて、できれば年に1回ぐらいは市民会議のほうにご報告いただいて、それをベースにして我々もそれぞれ情報発信をどうしたらいいとか、皆さんで検討していくと。そういう材料は必ず必要だと思いますので、ぜひこれは定期的にご報告をお願いしたいと思います。

宮脇委員長

ありがとうございました。

西村委員 (行)

報告する形はちょっと検討させてください。

八 ツ 藤 委 員
(国)

よろしく願いいたします。

宮脇委員長

今日、多数のご意見が出ていて、取りまとめ、私のほうも整理でき切れないところがありますが、基本的にはこの市民会議がどういう立場にあるかというのは、先ほどの繰り返しですが、もう1回再確認をしていただいて、その目標に従って我々はやはり動いていくべきかなと思っています。より多く、ただ意見を出すだけではなくて、ちゃんとつながるような工夫をしたらいいのではないかと。少しいつ要望として出ささせていただくところで、本日のところは締めさせていただきます。ご議論ありがとうございました。